



日・中・韓の社会福祉サービスとヒューマンパワー

参加費無料
当日参加OK

プログラム

- 12:30 受付
13:00~13:10 司会者挨拶
- 13:10~13:40 廣野俊輔 (日本)
日本における社会支出の特徴——OECD のデータから——
- 13:40~14:40 鄭義龍 (韓国)
韓国の国民基礎生活保障制度と NGO の役割
- 14:40~15:00 休憩
- 15:00~15:30 崔太子 (韓国)
韓国の「老人長期療養保険」の実施とヒューマンパワーの育成
- 15:30~16:30 吳明明 (中国)
高齢化時代における上海のコミュニティ在宅サービス
- 16:30~17:15 質疑応答
- 17:15~17:30 総括コメント 三宅洋一
- 18:00~20:00 交流会

●時間

2009年7月11日(土) 13:00~17:30

●場所

同志社大学 新町キャンパス 臨光館(R) 204 教室

●交流会

参加費: 1000円

締切: 2009年7月5日

申し込み方法: ①お名前、②連絡先(メールアドレス・電話番号)を必ず明記の上、以下までご連絡ください。(なお、ご記入いただきました個人情報は、本セミナーに関するご連絡の目的でのみ使わせていただきます。)

連絡先: 徐 榮 derc-sw@mail.doshisha.ac.jp

Doshisha Education Research Center of Social

産業化社会に突入した日・中・韓において、家族や共同体社会のいずれにおいても大きな変化が起こっている。核家族化により、家族の「老親扶養」機能の弱体化が進んでいる。長い歴史の中、儒教文化を共通基盤とした日・中・韓における「親孝行」、「養兄防老」(老後の不安を防ぐため、子どもを育て)など、伝統的な家庭観は、依然として一種の社会規範であろうか。そして、家族扶養の弱体化を補完するための社会的扶養のシステムは整えられているか。また、そのシステムをうまく運用させるための、人的資源は整っているか。今回のシンポジウムを通して、日中韓の若手研究者が、その実像を解明する。